

## 鉄道運休区間におけるバス代行輸送の経過

調査日：平成16年11月6日（土）、7日（日）

班：公共交通班

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：新幹線、交通ネットワーク、輸送

### 調査結果

#### ① 鉄道運休区間におけるバス代行輸送開始の経緯

バスにより安定した鉄道代行輸送を行うためには、鉄道に並行する道路の通行が確保されているだけでなく、バスの車両・運転手が十分に確保できなければならない（特に在来線については、主に通学生によるピーク需要に対応できるだけの車両数を確保しなければならない）。新潟県中越地震では、広範囲の鉄道ネットワークが被災したため、バスの確保が代行バス輸送にあたっての最も大きな課題となった。以下、路線別にバス代行輸送の経緯を整理する。

#### <上越新幹線>

##### ※ 鉄道不通区間

10月29日まで : 越後湯沢駅～新潟駅間

10月30日から11月3日 : 越後湯沢駅～燕三条駅間

11月4日から : 越後湯沢駅～長岡駅間

10月31日：越後湯沢駅～燕三条駅間および越後湯沢～長岡駅間でバス代行輸送を開始

11月4日：上越新幹線の長岡駅～燕三条駅間の運転再開に伴い、バス代行区間は長岡駅～越後湯沢間に。

11月5日：代行バスの関越自動車道大和パーキングエリア停車開始（浦佐駅としての扱い）

#### <上越線>

##### ※ 鉄道不通区間

11月1日まで : 水上駅～宮内駅間

11月2日から11月12日 : 六日町駅～宮内駅間

11月13日から : 小出駅～宮内駅間

11月2日：六日町駅～小出駅間でバス代行輸送を開始

11月8日：代行バス区間延長（六日町駅～越後堀之内駅間）

11月13日：代行バス区間延長（小出駅～長岡駅間）

<信越本線>

※ 鉄道不通区間

10月25日まで : 柏崎駅～東三条駅間

10月26日から11月28日 : 柏崎駅～長岡駅間

10月29日 : 柏崎駅～長岡駅間の直通バス代行開始

11月中旬 : 同区間で、各駅停車の代行バスの運行を開始

11月29日 : 鉄道運行再開（徐行運転）に伴い、各駅停車の代行バスが1往復に（12月12日まで）

<飯山線>

※ 鉄道不通区間

10月28日まで : 森宮野原駅～越後川口駅間

10月29日から : 十日町駅～越後川口駅間

10月27日 : 森宮野原駅～十日町駅間（朝夕）でバス代行輸送を開始

11月11日 : 十日町駅～小千谷駅間（朝夕）でバス代行輸送を開始

<只見線>

※ 鉄道不通区間

11月19日まで : 小出駅～只見駅

11月8日 : 小出駅～大白川駅間でバス代行輸送を開始

## ② 上越新幹線における代行バスの運用状況

新潟県中越地震での鉄道代行輸送において、最も輸送規模が大きく社会的にも重要性が高かったのが、上越新幹線の代行バス輸送といえる。

<概要>11月4日以降（上越新幹線 長岡～新潟間の運転再開以降）の状況

- ・運行本数 : 下り 14 便 上り 15 便 （12月7日から上下各1便を増便し、最終便時刻を繰り下げ）
- ・運行区間 : 越後湯沢駅～長岡駅
- ・所要時間 : 2時間10分でダイヤを設定。12月7日からは、1時間45分でダイヤを設定。
- ・運行体制
  - 運行計画 : JR 東日本が担当
  - 旅客誘導 : JR 東日本が担当。旅客誘導や、発着場所の車の誘導や案内確保は、JR 東日本が委託した民間会社が担当
  - 配車・運用 : 各便あたり基本的にバス6台を割り当て。便ごとに幹事バス事業者を決め、各運行便の配車や連絡を行う。長岡側、越後湯沢側とも予備車両が待機し、積み残しが出る場合には続行便を出す。

<長岡駅での旅客案内および車両運用>

長岡駅は駅前広場が整備されているが、既存の一般路線バスターミナルやタクシー乗り場などにより、一度に何台ものバスが発着するために割けるスペースは限られている。そのため、新幹線代行バスは駅周辺の路上での発着となっている。

代行バスに乗車する利用者は、切符を購入のうえ駅改札内（新幹線改札外、在来線改札内）に設けられた代行バス利用者集合場所に整列（図1）し、係員の先導でバス乗り場へ移動する。乗車場所は、長岡駅大手口から約200メートル離れた大手口北側の通り（街路幅員9m程度）の路上（図2）。バスの停車による通過車両の交錯を避けるため、警備員を路上に配置して、道路を通行するバス／一般車／横断歩行者を誘導している。越後湯沢発の代行バスは、長岡駅大手口から約200メートル離れた大手通りの路上（路線バス降車場）に到着（図3）。利用者は道路を横断して長岡駅へ各自移動する。

誘導や乗客整列、バスの出発合図は、そろいの服を着たJR 東日本が委託した係員が担当。JR 東日本社員は、改札口での案内と、発車直前で駅構内に残っている利用者の確認を行う。

バス発着場の周辺では、バス停車時に一般通行車両の交錯が若干見られることや、利用者が駅改札との間の長い距離を移動せねばならない状況であるが、目立った混乱もなく、案内や誘導は非常にスムーズに行われている。

<越後湯沢駅での旅客案内および車両運用>（図5、図6）

代行バスの乗降場所は、駅東口バスターミナル（駅前広場）。代行バスへの乗客は、新幹線改札口から係員のアナウンスおよび掲示をもとに、歩いて駅前広場まで移動する。代行バスの降車客は、駅前広

場内の降車場（屋根付き）から、同じく係員のアナウンスおよび掲示をもとに、各自で新幹線改札口へ移動する。係員（JR 東日本が委託した警備会社社員）が、新幹線改札口、駅自由通路、代行バス乗降場に配置され、乗客案内とバス出発合図等を担当。駅前広場内に、バス降車場、バス乗車場、次便のバス車両の待機場所を設置。旅客の案内やバスの運用ともに、スペースが広いため余裕をもってスムーズに運用されている。



図1 代行バス乗車集合場所  
(長岡駅在来線改札内)



図2 代行バス乗車場（長岡駅）  
車両誘導の警備員を配置



図3 代行バス降車場（長岡駅）



図4 代行バス発着場所掲示  
(長岡駅)



図5 代行バス乗車場  
(越後湯沢駅東口 駅前広場)



図6 代行バス降車場  
(越後湯沢駅東口 駅前広場)